

**(1) 双葉郡教育復興ビジョンにかかる協議・検討等**

□ 双葉地区地域学校協働本部（旧 双葉地区学校支援地域本部・年1回実施）

- 目的
- 構成：8町村地域コーディネーター、8町村小中およびふたば未来学園高校、8町村教育委員会を代表する者等
- 会議日：2016年8月4日（木）15時00分～16時30分
- 議事内容
  - ・ 「双葉地区地域学校協働本部」に名称変更（規約改正）
  - ・ 各町村での事例紹介、ふたば未来学園高校との連携協働に関する意見交換 等

□ 双葉地区中高連携協議会（年1回実施）

- 目的：双葉郡としての一体感を高め、生徒の主体性・協働性・創造性を育成する
- 構成：県教育庁代表職員、ふたば未来学園高校長および8町村立中学校長、8町村教育長等（協議会長：笠井淳一 浪江中学校長）
- 会議日：2016年11月9日（木）14時00分～16時00分
- 議事内容
  - ・ 中高生交流会の振り返りおよび次年度方向性の検討
  - ・ ICT等を活用した生徒交流の促進に関する意見交換 等

□ 委員会連絡協議会（年2回実施予定）

- 目的：各委員会・取組間の情報共有、連携
- 構成：各委員会委員長および中高連携協議会長（第1回目は昨年度委員長も出席）
- 会議日：2016年5月20日（金）15時00分～17時00分
- 議事内容
  - ・ 昨年度各取組の成果・課題の共有
  - ・ 今年度各取組の方向性協議、情報交換 等

□ その他の取組

- 学習支援
  - ・ 利用状況

町村	学習支援拠点	場所	対象	参加人数
楡葉町	ゆずり葉学習会	楡葉小中学校仮設校舎	中学生	51名
	ゆずり葉学習会（空の家）	楡葉町サポートセンター空の家	中学生	12名
双葉町	ふたばっ子学習会	双葉町立小中学校	小・中学生	7名
	ふたばっ子学習会（南台）	双葉町南台応急仮設住宅第三集会所	小・中学生	12名
大熊町	おおくま放課後学習会	大熊町好間第三応急仮設住宅集会所	小・中学生	12名
	フリースクール・ラトブサテライト	いわき駅前 LATOV	小・中学生	2名（中学生）

## 取組実施状況（2016/12/20 現在）

- 各町村学習支援拠点を一覧化、「双葉郡の仲間と一緒に学ぼう」と題したチラシにまとめ配布（10月）。今後も新学期等のタイミングで継続的に広報する
- ICT支援員の派遣
  - 各校の希望・要請に応じICT支援員を派遣、導入方法や基本操作を指導・助言
- 他地域交流事業
  - 昨年度研修で訪問した福井県鯖江市主催（鯖江市JK課プロデュース）「全国高校生まちづくりサミット」に、県内高校から参加者を募り同じ磐城高校2名、遠野高校3名、教員各1名を派遣
- 福島大学による支援活動
  - ふるさと創造学カリキュラム検討に係る指導・助言
  - ふたば未来学園高校での学習支援活動
  - 双葉郡内各小中学校・ビジョン関連の行事への参加、ボランティア協力 など

## (2)ふるさと創造学サミット(第3回)

### □ 趣旨

- ふるさと創造学の取組を共有し、学びを通じた交流で、地域のつながりをつくる
- (今年度スローガン) ~伝えあい、つながって、広がる ふるさとふたばの学び~  
町村や校種を越えて学びあい、多様な見方・考え方にふれることで視野を広げる

### □ 体制：(サミット実行委員会)

- 実行委員長：芳賀実 葛尾小学校長
- 委員：各町村・高校・相双教育事務所より1名以上（計14名）

### □ 実施概要

- 日時：2016年12月3日（土）10時15分～14時30分
- 会場：ビッグパレットふくしま多目的展示ホールA（郡山）
- 内容： ①各校取組をPRする「コマーシャルタイム」、②ポスターセッション形式で取組成果を共有する、「学びあいセッション」、③小、中高別の「ランチタイム交流」

### □ 参加者数（計697名）

- 児童生徒 265名（小学生129名、中学生120名、高校生16名、）
- 教職員等 251名（小学校75名、中学校82名、高校9名、その他85名）
- 当日来場者 181名

### □ 次年度に向けた成果・課題等

- 取組内容や表現方法が多様に広がった。また双方向の学びあいを生むよう各校で参加者の主体的な参加を促す工夫が見られた
- 中学校生徒会によるランチタイム交流の企画や高校生による司会進行など、生徒が主体性を発揮する場となった
- 各町村実行委員による現場主導の企画運営が進んだ。今後子どもたちの「学びあいの場」「社会体験の場」を協働で作りに上げるといふ共通理解をさらに深めたい



### (3) 小学校絆づくり交流会

#### □ 趣旨

- 町村の垣根を越えた仲間づくり
- 双葉郡内小学校の教職員の交流・情報交換

#### □ 体制：（絆づくり実行委員会）

- 実行委員長：加村育夫 大野小学校長
- 委員：各町村（小学校）より1名（計9名）

#### □ 実施概要

- 日時：2016年8月10日（水）10時15分～14時30分
- 会場：ビッグパレットふくしま多目的展示ホールB・C、屋外展示場（郡山）
- 内容：ミニ運動会、昼食交流

#### □ 参加者数（計307名）

- 児童149名
- 教職員等158名（教員92名、ボランティア24名、保護者等14名、その他28名）

#### □ 次年度に向けた成果・課題等

- 年々少人数化する中で、多様性にふれる貴重な機会になっている。昨年度参加した児童が班の中で率先して動く場面や事後の合同授業などで再会を喜ぶ場面も見られるなど、積み重ねが生きてきている
- 教職員の交流は昼食グループ分けをしたことにより一定達成できた
- 次年度開催候補日：2017年8月10日（木）（ビッグパレットふくしまを仮押え）。プログラムはミニ運動会と昼食交流を基本に、全校が開始から終了まで参加できるようタイムスケジュールを調整



#### (4) 中高生交流会

##### □ 趣旨

- （双葉郡中高連携の目的）交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じる
- 今年度の実施目標
  - お互い共感したり認め合ったりしてつながりを感じる
  - 普段の学校生活の中ではできない学びを体験し主体的に参加し、わくわくする

##### □ 体制：（中高交流会実行委員会）

- 実行委員長：南郷市兵 ふたば未来学園高校副校長
- 委員：町村（中学校）・高校より1名（計10名）

##### □ 実施概要

- 日時：2016/8/17（水）10時30分～15時00分
- 会場：ふたば未来学園高校（広野）
- 対象：双葉郡内中高生、双葉郡にゆかりのある中高生
- 内容：選択クラス別ワークショップ（テーマ：アート、パフォーマンス、フード、音）

##### □ 参加者数（計283名）

- 生徒157名（郡内中学校生徒125名、ふたば未来学園生30名、区域外就学生3名）
- 教職員等126名（郡内中学校68名、ふたば未来学園高校18名、その他40名）

##### □ 次年度に向けた成果・課題等

- 選択制、プロ講師によるワークショップ、少人数グループでの活動により、生徒の「主体性・協同性・創造性の発揮」や、「わくわく感」を達成できた
- 交流の意義を生徒ら自身が感じ、中高連携を目に見えるかたちで体感する場となった
- 連携の意義や交流の目的について郡内教職員間で共通認識を持てるよう、各校で位置づけを確認しつつ、全体で趣旨を共有していく
- 次年度：今年度中に実行委員会を開催、プログラムの方向性を検討する予定



## (5)カリキュラム検討・教員研修

### 1. ふるさと創造学教員研修

#### □ 目的

- （テーマ）～3年目を迎えた「ふるさと創造学」の学びの質を高めるには～  
総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習のプロセスの充実と発展、ふるさと創造学指導計画のブラッシュアップについて探る

#### □ 実施概要

- 日時：2016年4月21日（木）13時30分～16時30分
- 会場：富岡町教育委員会 会議室（郡山）
- 講師：文部科学省初等中等教育局 視学官 田村学先生
- 内容：講義・教材研究ワークショップ

#### □ 参加者数（計42名）

#### □ 次年度に向けた成果・課題等

- 事前アンケートを踏まえ、多くの学校で課題と感じている「教材・題材設定」について実践的なワークショップで理解を深め、取組のアイデア・イメージを広げることで、指導者としての自覚やモチベーションを高めることができた
- 年度当初に郡内教職員が情報交換・交流する貴重な機会となった

### 2. 4校合同授業研究協議会（葛尾小学校・富岡第一・第二小学校、川内小学校）

#### □ 目的

- 授業研究を通して、資質・能力ベースから教科指導を見つめ直し、教科ではぐくむ資質・能力が「ふるさと創造学」の学びとどう関わり、どう活用できるかを考える
- 4校の児童が授業の中で交流することを通して、多様な価値観に触れる機会とするとともに、町村を越えた絆をはぐくむ

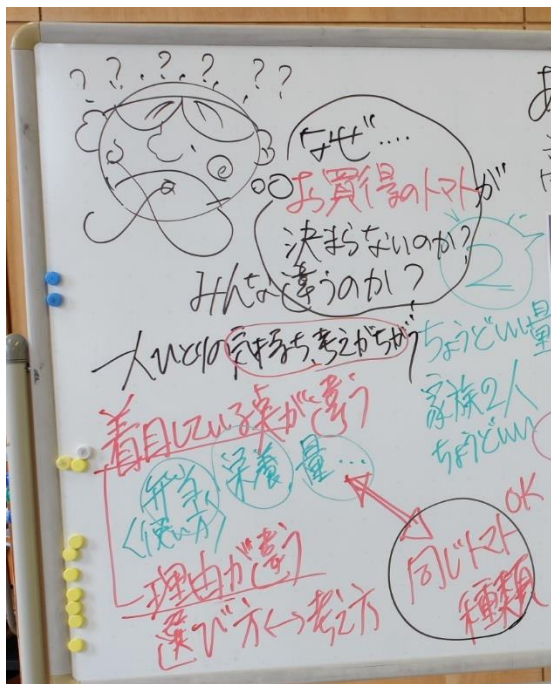
#### □ 実施概要

- 日時：2016年6月9日（木）13時30分～16時30分
- 会場：葛尾小学校三春校（三春）
- 講師：上智大学総合人間科学部教育学科 奈須正裕 教授  
齊藤一弥 横浜市立六浦南小学校長（実演授業者）
- 内容：講師による公開授業および研究会（授業リフレクション・鼎談）

#### □ 参加者数（計44名）

□ 次年度に向けた成果・課題

- 子どもたちの生活経験や実社会を材とし、教科ならではの見方・考え方をを用い、教科として伸ばしたい資質・能力を活用しながらはぐくむという、資質・能力の面から日々の教科指導の在り方を再考し、指導者として自覚を高める機会となった
- 4校の児童らが多様な意見や価値観にふれ町村を越えた絆をはぐくむ機会となった



(「お買い得のトマトはどれか」を問いにした単位量の授業。自然と対話が進んだ)

※ 今後、以下にて教職員による双葉郡子供未来会議を実施予定

- 日時：2017年1月17日(火) 13時00分～16時30分
- 会場：郡山市中央公民館
- 講師：福島大学 坂本篤史 准教授

## (6)ICT 活用推進・広報誌編集制作

### 1. ICT 活用推進

#### □ 目的

- 離れている双葉郡の学校同士をつなげ、子供たちへの教育効果を高める
- ※ 平成 28 年度より福島全県導入となった「G Suite for Education」（Google 社のグループウェアサービス）を平成 27 年度より先行導入し、先行地域として活用推進

#### □ 体制（ICT 活用推進委員会）

- 委員長：阿部洋己 富岡第一中学校長
- 委員：各小・中・高校 1 名（計 22 名）

#### □ 取組概要

- 年 2 回の委員会での情報共有（5 月 24 日、11 月 17 日）
- 先進地域視察
  - ・ 埼玉県戸田市立笹目中学校視察（7 月 11 日）
  - ・ 新地町 ICT 活用発表会（11 月 16 日）
- ビジョンに係る各行事や取組（絆づくり交流会・中高生交流会・ふるさと創造学サミット、広報誌作成等）での町村を越えた協同・情報共有のサポート
- ハングアウト（Google テレビ会議）等を活用した生徒交流のサポート
- ※ ICT 支援員派遣により各校での導入・活用をサポート（事務局）

#### □ 次年度に向けた成果・課題等

- 各校 ICT 委員が中心となりビジョン関係行事・取組での活用をサポートすることで、全体的な ICT リテラシーの向上・活用推進につながった
- 生徒・現場教員からの発案呼びかけで、ICT を活用した生徒会交流がスタートした
- 校内ネットワーク環境整備、運用ルールやセキュリティポリシーの明確化が必要



（ハンガアウトによる生徒会役員同士の交流。8 町村の中学校がつながった）



## 2. 広報誌「ふたばの教育」の編集制作

### □ 目的

- 双葉郡内各校の取組や子供たちの姿・思いを、教員や子供の視点を大切に地域内外へ取組を発信することで、ふたばの絆をつくとともに、表現・発信等のアクティブ・ラーニングにつなげる

### □ 体制（広報誌編集委員会） ※ICT 活用推進委員会分科会として設置

- 各校任意選出、ICT 活用推進委員も参加（計 8 名）

### □ 取組概要

- 広報誌の編集方針・テーマの検討
- 各校での素材収集およびビジョン関係行事の取材 等

### □ 今年度広報誌概要

- 編集方針・内容
  - ・ 各学校の学校生活や取組紹介の充実
  - ・ 現場教職員、子供たちの視点からの表現・発信につなげる

号	2016 年秋号 (vol.5)	2017 年春号 (vol.6)
発行	10 月 15 日発行	2017 年 3 月初旬発行予定
内容	・笑顔・まなざし・各校の日常 ・夏の交流会レポート	・ふるさと創造学取組プロセス ・サミット当日レポート

- 読者：双葉郡 8 町村の地域住民（各町村広報誌に同封し全戸へ発送）  
各校保護者・双葉郡内教育関係者（郡内各校、県教育委員会等へ発送）
- 部数：約 38,000 部

### □ 次年度に向けた成果・課題

- 各校の取組紹介を充実させたことで、「他校の取組を知れる」「子供たちも興味を持って読んでいる」「子供の顔が見える」など、学校内外から評価を得た
- 今後紙面を子供たちの表現・発信活動の場として、活用していきたい

以上